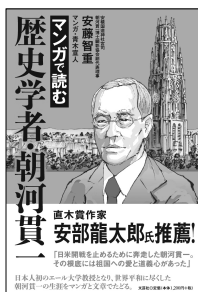


# ブックレビュー



## 『マンガで読む 歴史学者・朝河貫一』

安藤智重 著 マンガ・青木宣人

文芸社 刊

定価 1,320円 (本体1,200円+税)

著者の安藤 (1967～) は、福島県郡山市内に鎮座する安積国造神社あさかくにつこの第64代宮司だ。早大卒業後、生家の神職を継ぎ、幼稚園経営を兼ねながら郷土出身の偉人の来歴や足跡を掘り起こしている。漢学や幕末・維新史に精通し、「白河以北、一山百文」と軽視したこの国の近代を逆照射する独自の「東北学」にも造詣が深い。

本書は、前著『儒学者・安積良斎』(2022) に次ぐ第二弾と言えるが、良斎も朝河貫一も著者には縁故の先人だ。良斎 (1791～1860) は幕末に昌平坂学問所などで教授を務め、門人を多数輩出して明治の黎明期に多大な思想的影響を与えた。ちなみに、著者の訳注書『良斎文略』は第37回福島民報出版文化賞の正賞を受賞している。郷土に密着した旺盛な文筆活動は得がたい。

貫一 (1873～1948) は日欧の封建制を比較研究し、自由主義や民主

主義を高く評価して覇権主義に異を唱え、昭和戦前期に戦争回避や平和実現を希求した。日米開戦直前には、昭和天皇に宛てたアメリカ大統領ルーズベルトの親書草案を認めたが、時すでに遅く、天皇に届いたのは真珠湾奇襲攻撃直後という不運にも遭遇する。

没落士族の家に生まれた貫一は、幼少期から父親の英才教育に鍛えられ、姻戚に当たる良斎の立志伝を叩き込まれた。尋常中学を首席で卒業して上京。東京専門学校(早大の前身)を経て米国留学の機会を得、後にエール大学教授として比較法制史の教鞭をとった。

著者は巻末の「解説」で言う。「良斎と貫一とは共通点が多い。机上の学問に終始せず実学を尊んだこと、覇権主義を採らないこと、平和思想、道義の重視、冷静緻密な分析考察など」と。その評価は、著者自身にも重なるように思われる。

(山海野 玄)